

太宰府の文化財

vol. 493

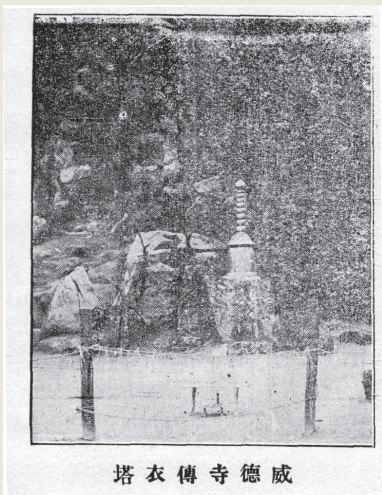
伝衣塔と渡宋天神

江戸時代

太宰府天満宮の南に、禅宗寺院光明寺があります。その西側に花崗岩の巨岩が露頭し、昔から霊岩と呼ばれた山裾の巨岩の上に石塔が据えられています。これを伝衣塔と言います。この塔の由来は、渡宋天神と光明寺の創建にも密接に結びついています。渡宋天神とは、鎌倉時代に宋から帰国し、博多崇福寺にた聖一國師(円爾)の前に菅原道真(903年没)の霊が現れ、禅の教えを求めたところ、国師の勸



伝衣塔(北から)



徳威寺傳衣塔

大久保千濤1926『太宰府の光』
大野白水堂から転載
威徳寺(光明寺)伝衣塔

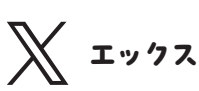
めで一夜のもとに宋の径山に渡り、僧・無準師範(1249年没)に参じ、教えを受け、印可を得て法衣をさずかったという説話です。その法衣を受け継いだ僧・鉄牛(牛心)が太宰府に開いた寺が光明寺で、その際に寺の西へ法衣を安置したのが伝衣塔と伝わっています。これについては『菅神伝衣記』(正徳5年(1715))に記載がありますが、鎌倉時代の同時代史料には記載がなく、室町時代中・末期の編著とされる

『菅神入宋授衣記』に、「太宰府霊岩の左に僧宇(寺)を建て、法衣を安置した、これを衣塔と為す」と出てくるのが初出です。しかし、ここには衣(を納めた)塔の話はありませんが、石塔の話はありませぬ。その後、衣塔の記載はなく再度出てくるのは『渡宋天満神來由略附傳衣塔』(天明9年(1798))です。ここで衣塔が今伝衣塔と呼ばれている石塔とされています。絵図の記載では、「安楽寺天満宮全景」西都聖廟全

図「筑前國續風土記附録」(寛政11年(1799))や『大野城太宰府旧蹟全図北』(文化三年(1806))には描かれていませんが、『筑前名所図会』(文政4年(1821))には描かれています。光明寺の歴史では天明9年(1789)が、菅神渡宋より550年に当たるということもあり、推測にはなりますが、渡宋天神伝説に伴うものを光明寺が18世紀末、19世紀初頭に整備したのではないのでしょうか。ちなみに、現在は巨岩の上に石塔がある姿ですが、竈門神社宮司だった大久保千濤がちょうど100年前、大正15年(1926)に出版した書籍『太宰府のひかり』(大野白水堂)の口絵を見ると、別の物が据えられています。これは、『筑前名所図会』に描かれた塔に似ています。時期事情は不明ですが、ここ100年の間に現在のもの変わったと考えられます。伝衣塔は、太宰府に残る渡宋天神伝説の1つとして貴重な文化遺産です。

文化財課
高橋 学

太宰府市公式SNSのフォローをお願いします!



編集：太宰府市総務部経営企画課 〒818-0198 太宰府市観世音寺一丁目1番1号
☎092(921)2121/FAX(921)1601 ✉keiei-kikaku@city.dazaifu.lg.jp



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

